

# サロン活動の継続を!

ご近所同士のコミュニケーションの場として、「気軽に」「無理なく」「楽しく」「自由に」過ごすことを目的に、玖珠地区で活動している【いきいきサロン】21団体のうち10団体の役員さんが参加して、サロンの活動状況や意見・要望を聞く「意見交換会」を2月14日に開催しました。

金藤健康福祉部会長より、「高齢者のつどいの場所づくりを目的にサロンが発足しました。介護保険の利用縮小により、今ままで以上に地域の高齢者を地域で支え合える状況になっていますので、現在のサロン活動をぜひ継続してほしい」とあいさつ。

意見交換会では、各サロンから「男性の参加が少ない」「少人数なのでバス研修を合同で利用できないか」「地域づくりとかボランティア活動などに関心の薄い方を誘う時に、玖珠町の現状や生活支援ボランティアの役割が一目でわかるような資料を町民に配布したらどうか」など貴重な意見をいただきました。

これからも地域のニーズや特徴を考慮して、自分たちが出来ることを必要としている人に、常日頃からのつながりを持つことにより緊急災害時などの対応にもつながるようサロンの推進・充実を図っていきま

玖珠地区コミュニティ運営協議会では、一昨年の熊本・大分地震や昨年の九州北部豪雨災害等の発生に備え、被災者への適切な支援や効率的な支援の方法を学び、災害に対する知識や技能の向上を図るための各種研修会に参加しています。

今回の研修では、台風の集中豪雨により玖珠郡内5地区を中心に床上浸水136棟、床下浸水225棟、家屋の全壊12棟、半壊19棟の《想定》で、両町の災害対策本部の要請を受け、【災害ボランティアセンター】を開設してからの『運営訓練』を、2月18日、九重文化センター体育館で実施しました。この訓練には、郡

## 『心に寄り添ったヘルスケアの必要性』を痛感 「玖珠郡災害ボランティアネットワーク協議会」第3回研修会に参加して

内の協議会会員や両町・県内の社協職員など151名が10のグループに分かれ、災害ボランティアセンターの運営組織として、  
①総務・総合調整班  
②ニーズ・地域支援班  
③ボランティア受付班  
④マツチング班  
⑤資機材班  
の五つの事業を体験しました。「ニーズ・地域支援班」の体験では、被災された方の生活の困りごと相談をきめ細かくキャッチする能力や、心に寄り添ったヘルスケアの必要性を痛感しました。

これからも、被災地域住民の共助としての活動や外部ボランティアとの協同について、多くの地域住民と様々な訓練を通じて「災害ボランティアセンター」の役割について理解を深めていきたいと思えます。

事務局 小野

## くすふれあいホール図書館 ～今月の新刊紹介～



図書館の貸出しを希望の方は事務室に声をかけて下さい。  
※夜間・土・日・祝日の貸出しは出来ません。

## かわいい鬼たちがくすまき

2月2日、くすのきこども園児の皆さんが、くすふれあいホールに豆まきに来てくれました。



福がやってきましたように!